

【高等学校用】

令和6年度学校評価 結果

学校名	有田工業高等学校（全日制）
-----	---------------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・授業研究週間を設けることにより、授業改善がより図られた。今後も新指導要領にのっとってさらに良い評価方法について、改善・検討を続ける必要がある。 ・課題研究や学校行事、部活動を中心に地域との連携行事は充実した。特に「地域学習の日」において新たに地域の協力が得られたことも大きかった。今後も課題研究や部活動などで、地域に喜んでもらえるような活動の充実を図りたい。 ・令和6年度入学予定者の全国募集による受検者は3名にとどまった。「地域みらい留学」以外の手法を用いた全国からの受検生の獲得手法についても、さらに研究・実践が必要である。
------------------	---

2 SAGASクール・ミッション 学校教育目標	【SAGASクール・ミッション】 ○有田が持つ様々な地域資源を活用し、ものづくりを通して生涯学び続け、新しい価値を生み出す技術者を育成する。 ○国内初の陶器工芸学校の伝統を継承するセラミック科、デザイン科の魅力を磨き上げるとともに、広く県内外に発信して生徒を募集し、学校及び地域の更なる活性化を目指す。 【学校教育目標】 勉情 「愛し」「創り」「光れ」を礎とした自立した人間の育成
----------------------------	--

3 スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー ・ものづくりに関しての興味・関心が高い生徒。 ・専門的な知識・技術を身につけるために、各学科の学びや資格 取得に積極的に取り組もうとする生徒。 ・地域や社会に何かの形で貢献したいという意欲のある生徒。 カリキュラム・ポリシー ・ものづくりの技術者として必要な、基礎学力と専門的な知識・技能を習得できる 授業を行います。 ・学校行事・ホームルーム活動や部活動、地域との連携などによる協働活動を通して、社会人としての基本的な姿勢や思いやりの心、自律心を伸ばします。 ・生徒会活動や資格取得・コンテスト参加について、生徒の主体的、自発的な取組 グラデュエーション・ポリシー ・ものづくりを通して、生涯学び続ける技術者となる生徒 ・自己や他者、地域を愛し、地域から愛される生徒 ・積極的に挑戦し、新しい価値やものをつくり出す生徒 ・個々の個性を光らせ、地域や社会に光を灯す生徒	4 本年度の重点目標	・「SAGASコラボレーション・スクール」重点校として、有田町との連携協働による 特色ある教育活動の充実と地域振興への貢献 ・県内唯一無二のセラミック科とデザイン科の魅力発信の強化、全国募集の推進及び志願者数の増加
-------------	---	------------	---

5 重点取組内容・成果指標	最終評価
---------------	------

(1)共通評価項目				最終評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度 (評価)	最終評価 実施結果
	取組内容	成果指標 (数値目標)			
●学力の向上	○ものづくりの技術者として必要な基礎学力及び専門的な知識・技能を習得するための授業改善	○学力の定着を図るため、教育課程編成及び学力向上に向けた会議を4回実施することで、PDCAサイクルの推進に努める。 ○基礎力テストの年間全体平均を7.0点以上を目指す。	・教育課程委員会及び学力向上対策委員会を活性化させ、より効果的な評価方法を確立する。 ・授業公開週間を年2回設定することで、教員が相互に授業を参観し、指導助言を行うことで、授業改善に繋げる。 ・基礎力テスト前日に対策の時間を設けて学力向上に繋げる。	A	・年間通して教育課程委員会を実施したことにより、各科の共通理解を図ることができ、教育課程の改善に繋げることができた。 ・年2回の授業公開週間を設け、他科目の授業参観することで、授業改善に繋げることができた。 ・基礎力テストは、学校全体で事前の対策を設けたことで、平均点は7.1点となり、全体的な学力向上に繋がった。
	★科・学年での組織的・系統的な進路指導の実践 ○進路希望調査(4月・2月) ○全職員・PTAによる面接指導週間(9月) ○各科での進路体験発表会の実施(12月)	★就職・進学希望者100%の進路実現を目指す。 ○就職希望者は、志望企業や公務員に全員内定を目指す。 ○進学希望者は、志望校全員合格を目指す。	・進路希望調査を年2回実施し、進路意識を高める。 ・全職員だけでなく、PTAの協力を頂き、2週間に渡り、全員2回の面接指導を行う。 ・各科数量で、先輩から後輩へ進路決定までの体験内容を発表し、アドバイスや激励の機会をつくる。	B	・就職95名、進学42名が進路決定しているが、1名がこれから進学受験の予定で、2名が未定である。 ・PTA及び学校運営協議会の委員様の協力により、就職試験前の面接週間の面接指導(9月)の実施など、進路実現に向けて充実した指導ができた。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○豊かな心を育む教育活動を実施し、「生命を尊重する心の大切さがわかった」と回答した生徒95%以上を目指す。	・外部講師による性に関する講話・教育相談講話(7月)、人権・同和教育後講演会(10月)を実施する。	A	・性に関する講話とエイズ予防講話実施後に「生命を尊重する心の大切さがわかった」と回答した生徒は全員であった。講話の感想を「ほげんだより」に掲載し、他者を思いやる行動や自己肯定感を高めるために振り返りができるような工夫をした。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○生徒アンケートによる早期発見及び職員研修を通した共通理解を図る。 ○いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教員95%以上を目指す。	・いじめの対応についての研修・会議を年間に1回以上行う。 ・いじめアンケートを年2回以上実施する。 ・スクールカウンセラーの活用を積極的に行う。	B	・アンケート、研修、委員会など計画通りに実施できた。 ・「いじめ防止等について組織的に対応ができている」と回答した教員は91%であった。 ・いじめの認知は1件であった。アンケート調査や面談週間の実施を通して、生徒の不安や悩みに対応できている。
●健康・体づくり	●「健康を考えて行動できる能力の育成」	○健診の事前指導を工夫し、受診勧告書の発行数を前年度の歯科34%を、30%程度に減らすことを目指す。 ○血圧の測定を行い、自分の血圧を知って健康について考える生徒90%以上を目指す。	・学校歯科医による歯科講話(5月)を実施する。 ・集会時や保健だよりによる意識付けを行う。 ・血圧測定、血圧に関する講話を実施する。	A	・歯科受診勧告書の発行数は39%と前年より多かったが受診報告数は増えている。生徒の1/3が、歯の問題を放置しており対策を考える必要がある。 ・血圧に関する講話を1月に実施し、「血圧について理解できた」生徒は97%で、保健室での血圧測定と個別の声掛けを継続し、健康についての意識付けができた。
	○部活動の活性化 ○体力の向上	○部活動加入率85%以上を目指す。 ○九州・全国大会への出場・入賞を目指し、日々の活動を充実させる。 ○校内マラソン男子30km3時間以内60名完走、女子10km90分以内60名以上完走を目指す。	・部活動体験入部の期間、部活動編成会を実施し、生徒の部活動加入を促進する。 ・部活動紹介、HP部活動ニュースの充実を図る。 ・部活動予算・体育文化奨励費の適正な運用と練習環境の整備・改善を行う。 ・体育科との連携による体力を高める運動の実施とマラソン練習期間を確保する。	A	・野球部の第106回夏の甲子園大会出場を筆頭に、ウエイトリフティング部の全国総体出場、漫画研究部、放送部の全国大会出場等部活動の活性化が十分見られた。 ・マラソン大会の練習は十分に行うことができた。目標としていた男子30km3時間以内完走者60名に対して54名(90%)の達成、女子10km90分以内完走者60名に対して32名(53%)であった。今後もマラソン大会のような行事を継続できるとよい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●月の時間外在校等時間が45時間を超える職員の割合を22%以下とする。 ○年次休暇(男性職員子育て休暇取得プラン含む)の取得を14日以上を目指す。	・定時退勤日を水曜日に設定し、呼びかけのポスター掲示や職員朝礼時に口頭による啓発を行う。 ・部活動休業日を設定する。 ・年次休暇を取得しやすい職場環境づくりに努める。	B	・定時退勤日を水曜日に設定し、呼びかけのポスター掲示や職員朝礼時に口頭による啓発を確実に行った。 ・月の時間外在校等時間が45時間を超える職員の割合は23%と減少傾向であった。 ・有給休暇の取得については、全職員の年休取得日数の平均値は11.3日という結果である。
●特別支援教育の充実	●特別支援教育の充実 ○生徒に関する情報共有と継続的な生徒支援	○生徒に関する情報共有を年間6回以上おこなう。 ○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教職員70%以上を目指す。	・授業担当者会議による生徒理解・生徒支援 ・学年会・特別支援教育委員会での情報共有 ・本校の生徒の状況に応じた特別支援教育の職員研修を実施する。	A	・毎月の学年会、各科会で生徒についての情報共有を行っている。 ・特別支援教育に関する職員研修の参加は75%、出席ができなかった場合は、資料による個別研修とした。研修後の感想から、専門性が向上したことが分かった。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度 (評価)	最終評価 実施結果
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)			
○地域との連携	★学校運営協議会(学校魅力強化委員会)の更なる活用による地域・外部との連携強化 ○地域や外部と協働し、高校の魅力強化及び志を高める教育の推進	★学校運営協議会を年6回開催する。 ★学校運営協議会で提案された事業を最低1個実現する。 ○地域から大切にされている雰囲気を感じると答えた生徒の割合を83%以上、教職員の割合を83%以上を目指す。	・学校運営協議会の委員に新たなメンバーを加え、熟議をさらに充実させる。 ・地域に出向いたり、地域の方々と触れ合う機会をこれまで以上に確保する。	A	・学校運営協議会を6回実施し、学校運営協議会で提案された事業(グランドデザインの修正、地域学習の日における企業訪問先など)を複数実践した。 ・地域から大切にされている雰囲気を感じると答えた生徒の割合83.1%(全国平均81%)、教職員の割合97.9%と目標値を上回る結果であった。
○唯一無二の学校づくり	★「地域みらい留学」を通した全国募集の更なる推進(セラミック科・デザイン科)と受け入れ生徒の支援体制の確立 ○学校の魅力発信の強化と広報活動の充実	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合85%以上、教職員の割合87%以上を目指す。 ★県外からの入学者数24人以上を目指す。 ○地域みらい留学志願者を5名以上を目指す。	・校内、校外ともに広報活動を充実させ、各科や部活動等の活動も周知し、学校の魅力発信に努める。 ・県外への学校訪問を積極的に行う。 ・地域みらい留学による入学者が良き宣伝者となるように、留学生のケアを関係機関と協力して丁寧に行い、充実した学校生活を送れるように支援する。	A	・自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合1回目:88.6%、2回目:78.1%(全国平均80.9%)教職員の割合93%、地域みらい留学志願者5名であった。 ・学校HP上での「まいにち更新」で学校の様子を発信できている。また、公式インスタグラムのフォロワー数は482名(今年度だけで約360名増)など学校の魅力発信の強化と広報活動の充実を図ることができた。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育 ★・・・唯一無二の誇り高き学校づくり

6 総合評価・ 次年度への展望	・学力の向上、心の教育、健康・体づくりについては、目標指標に対して、達成度はAまたはB評価と一定程度の成果を上げることができている。 ・業務改善及び教職員の働き方改革の推進については、時間外在校等時間が45時間を超える職員の割合は23%と減少傾向であるが、教職員のウェルビーイングの向上に向けて、さらに業務改善に努めたい。 ・唯一無二の学校づくりについては、令和4年度から重点校として3ケ年取り組んできたSAGASコラボレーション・スクール事業を完了した。次年度以降、これまで取り組んできた地域連携事業のブラッシュアップとともに新たな地域連携事業を開拓する等、学校の魅力の磨き上げに努めたい。 ・これまで実践してきた学校HPでの「まいにち更新」に加え、生徒によるInstagramによる情報発信、地域みらい留学HPの掲載情報の充実等により、学校の魅力発信に努め、本校を志願する生徒に向けて取り組みたい。
--------------------	--